

石神井図書館 図書館利用者懇談会

- 1 日時 令和3年11月4日(木) 午前10時～午前11時45分
- 2 場所 石神井図書館 2階会議室
- 3 参加者 利用者11名 図書館4名(石神井図書館長、館長代理3名)
- 4 テーマ 「コロナ禍における図書館サービス」
- 5 配付資料
 - (1) 次第
 - (2) 『練馬区立図書館ビジョン～これからの図書館サービスのあり方～』
 - (3) 『石神井図書館開館50周年関連事業』(ホチキス止め)
 - (4) 『読書週間館内全体展示 本で空想旅行』ブックリスト・館内マップ
 - (5) 『石神井図書館だより 10月号』
 - (6) 『野菜作りの基礎知識』『石神井図書館館内ツアー』『もっとおしえてホリーさん!チェコの絵本の世界』『南方熊楠入門』(事業チラシ)
- 6 次第
 - (1) 石神井図書館長挨拶
 - (2) 図書館職員紹介
 - (3) 懇談
 - ①図書館事業説明
 - ・一般サービス事業
 - ・児童サービス事業
 - ・学校支援事業質疑応答
5分間休憩
 - ②コロナ禍における図書館サービスについて
 - ・コロナ禍での石神井図書館の取り組み
 - ・質疑応答・意見交換

石神井図書館利用者懇談会 会議録

1 石神井図書館長挨拶

それでは定刻となりましたので、はじめさせていただきます。

これから『練馬区立石神井図書館 令和3年度 図書館利用者懇談会』を開会いたします。

本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。

石神井図書館は昨年度から株式会社図書館流通センターが運営する指定管理館となり、今年度で2年目となります。

昨年4月から館長をしております廣川と申します。よろしくお願ひ致します。

昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍での運営となり、皆さまもご存知のように9月末までは緊急事態宣言下の運営となりましたので、どのような運営をするべきかなかなか頭の痛い日々でした。

本日は、第1部として石神井図書館が目指す図書館像をふまえ、昨年の利用者懇談会後から今年の10月まで行った事業の報告をさせて頂き、第2部で今年度のテーマであります「コロナ禍における図書館サービス」について、石神井図書館での取り組みを報告させていただきます。

またそれぞれの報告の後に本日ご出席いただきました地域のみなさま、図書館を利用されている団体のみなさま、近隣施設の方々からご意見をいただく時間とさせていただきます。

11時30分までの短い時間ではございますが、最後までよろしくお願い申し上げます。

2 図書館職員紹介

館長、館長代理3名（内記録担当1名）

3 懇談

図書館 【図書館事業説明】

石神井図書館は『練馬区立図書館ビジョン～これからの図書館サービスのあり方～』の基本理念「情報拠点として 区民に役立ち 頼りにされ 愛される図書館」に基づき、区民の皆様や地域が抱える課題解決のお手伝いや、区民の皆様と協働する地域に根差した図書館サービスを展開することで、地域とともに歩む図書館を目指し、様々な世代への読書支援と情報発信の充実を図っていきたいと考えています。

基本理念をふまえ、当館は「地域を知ることができる」「地域の魅力を再発見できる」事業を心がけ、イベントや展示を行っています。また図書館は、0～9の数字で始まる分野を表す数字で分類された本を入口に多種多様な世界に開かれた場であると考えています。多面的な切り口で紹介する本やCDの展示やイベントを行うことで、多様な世界や文化との思いがけない出会いを楽しみ、知識を深めることができる場となるよう様々な企画を考えています。

ここで昨年度後半から今年10月までに行った一般・児童・青少年の事業を報告致します。まず昨年度後半に開催しました大人向けの事業をご紹介します。

11月に「おしえてホリーさん！チェコの文化を知ろう」を開催しました。チェコと日本の外交関係樹立100周年にちなみ、チェコ文化を広く日本に知らせることを目的に、講演会やイベントを数多く行っているペトル・ホリー氏をお招きし、チェコ文化に関して基本的な歴史、音楽、料理、人形劇、アニメ等、入門的な知識を得ることができる講演会を行いました。30代から80代の幅広い世代の方に参加頂き、「シリーズ化してほしい」という声もあがるほど好評を得ました。この時にお話しできなかった「チェコの絵本」については、「もっとおしえてホリーさん！チェコの絵本の世界」というタイトルで、今月21日に開催致します。

2月に「バリアフリー映画会」を開催しました。バリアフリー映画とは、音声ガイドや日本語字幕の入ったかたちで上映するもので、誰でも一緒に楽しむことができる映画

会となっています。40代から80代の方がご参加され、中にはこの機会にはじめて来館された方もいました。小林政広監督「春との旅」(2010年)を上映しました。同じく2月に「かこさとしの絵本の魅力」と題し、日本を代表する絵本作家・かこさとしの初の美術館開催かつ、初回顧展を手がけたキュレーター・林綾野氏にご案内いただきました。展覧会の構成に沿って、創作の原点や絵本の下絵など詳しく解説いただき、参加者からは「知らなかったかこワールドに触れられた」「いい意味で絵本への向き合いかたが変わった」など心のこもった感想を多くいただきました。

続いて令和3年度の事業報告です。

6月に地域の美術館であります、ちひろ美術館との連携企画として、美術館で開催した「生誕111年 赤羽末吉展 日本美術へのとびら」の関連事業として、赤羽末吉研究家の赤羽茂乃氏による講演会「赤羽末吉の旅と絵本」を行いました。本講演会と当館の関連展示、ちひろ美術館展覧会で連携することで、赤羽末吉の絵本の魅力をより深く味わって頂ける事業になったのではないかと思います。今年度は文化庁の地域と共働した博物館創造活動支援事業として、ちひろ美術館とはいくつか連携事業を行っており、この講演会もその一環で行ったものです。その他スタンプラリーを行ったり、今後絵本にまつわる講演会等も控えております。

地域で活躍される方をお呼びして開催したイベントとして、7月にフラ教室、ワイナニ・フラスタジオの方々をお招きした「みんなで楽しむフラショー」を行いました。また9月に、ハニカムペーパーを使ったワークショップ等を企画するpippo design worksのみやざきたみこ氏をお招きして、「作って飾るハニカムペーパー」を開催しました。ハチの巣のように開く薄紙で大・中・小の花を作りました。どちらの企画も参加者から「コロナを忘れる思いで」楽しむことができたという感想を頂き、好評でした。

10月には、郷土史家・ノンフィクションライターの葛城明彦氏を招き、三宝寺池周辺にまつわる歴史の講演会を、座学・散策の二部構成で行いました。先生ご専門の中世豊島氏にまつわる史跡を散策しながら、近世、近代、戦後等のエピソードも豊富に盛り込んだ解説をしていただき、「郷土史を深く理解することができた」と非常に満足度の高い講演会となりました。

石神井公園サービスセンターのご協力により、普段は開放していない石神井城址の見学もさせて頂きました。今年度は階段の壁面を「階段ギャラリー」と題し、定期的に地域に関連する写真などの展示をしています。「三宝寺池歴史散歩」の講演会の際も葛城先生、練馬区役所、練馬区立ふるさと文化館の協力を頂き、三宝寺周辺の歴史がわかる写真を展示しました。現在は11月13日に開催予定の「野菜作りの基礎知識」と関連し、講師にお迎えする加藤義松氏の加藤農園のご協力で農園で作られている野菜や農園の様子を写した写真を展示し、練馬区で全国に先駆けて行われた、都市農業において画期的なシステム・農業体験農園について知って頂く機会としたいと考えています。今後も

石神井地域、練馬区の魅力をお伝えする場として活用していきたいと思
います。

昨年度、石神井図書館は50周年を迎え、ちょうど昨年のお懇談会の頃から12月末にか
けて、館内で50周年の展示やイベントを開催致しました。まず「50年前にタイムトリ
ップ」と題して、館内全体で50年前の流行、潮流、事件等に関する本やCDを展示し、
階段ギャラリーでは「あの頃図書館ができた」と題し、50年前の石神井地域や図書館の
写真を展示しました。また地域で活躍するハニカムペーパーを使って作品を制作する方
に「本の森」をイメージして館内各所を華やかに飾りつけて頂き、児童向けイベントと
して、森の動物をイメージしてクマのポップアップカードと小鳥のミニリースづくりの
工作会を実施しました。開館記念日である12月1日には貸出者、来館者に開館記念の
しおりを配布しました。そのほか先ほどご紹介した郷土史家・葛城氏による「石神井50
年のあゆみ」や石神井インターナショナルオーケストラによるコンサートを実施しまし
た。「みんなで作る石神井図書館メッセージツリー」では、皆さまに石神井図書館の思い
出について、多くの温かいメッセージを頂き、石神井図書館が地域で愛されている図書
館であることをあらためて感じる機会となりました。全体を通して、地域の方々のご協
力を得て、石神井地域の魅力をお伝えすることができたのではないかと考えております。

以上、報告しました事業に加え、石神井図書館で行っている地域との連携事業を簡単に
報告致します。

児童サービスとして定例で行っている、よみきかせやおはなし会はボランティアの皆さ
んとの協働で行っています。布絵本作製サークル「布の絵本の会こぶし」の制作支援を行
っています。みなさんには、図書館で所蔵しております、布の絵本を制作いただしていま
す。会場の後ろで現物を展示しておりますので、後程ご覧ください。本日資料としてお配
りしている最新の石神井図書館だよりには会の方へのインタビュー記事が載っています
ので、そちらもご覧ください。

練馬ふるさと紙芝居サークルの制作支援を行っています。みなさんは、ふるさと文化館
が発行している「ねりまのむかしばなし」の中の昔ばなしを紙芝居にする活動をされてい
て、図書館にも所蔵しています。絵の時代考証等で、ふるさと文化館にもご協力いただ
いています。こちらも現物を展示しておりますので、後でご覧いただければと思います。

この会議室と同フロアにある地域資料コーナーには、練馬区立ふるさと文化館とちひろ
美術館のコーナーを設置しており、それぞれで行われている展覧会の関連展示を設置して
います。現在は「思い出のとしまえん」「わたしのすきなちひろ」展の関連した展示を行
っています。石神井公園コーナーもあり、関連資料と毎月公園サービスセンターで作成し
ている石神井公園「見ごろの生き物」も配布しています。

5月に毎年氷川神社で開催されています地域のイベント「井のいち」に参加予定でした
が、緊急事態宣言が出ていたため、当日イベント内で展示予定だった「こもれび図書館」
の展示を館内で行いました。「こもれび図書館」とは井のいちに関わっていらっしゃる地
域の方々のおすすめ本の展示です。井のいちで展示した後、図書館でも展示して皆が借り
ることができるようにする予定でしたが、今回は図書館の館内のみでおすすめコメントを

付けたかたちで展示しました。来年度以降も本を通して参加させていただければと考えています。

続いて、既に行いました報告にも含まれていましたが、児童向け事業と学校支援事業について児童担当より報告致します。

第4次練馬区子ども読書活動推進計画では、区の新たな総合計画である「第2次みどりの風吹くまちビジョン」、「練馬区教育・子育て大綱（たいこう）」等関連する計画との整合性を図りつつ、総合的・計画的な事業が展開できるよう定めました。また、第一次計画策定時に掲げた「読書で築く ねりまの子どもたちの未来」の理念のもと、新たに基本目標を定め、乳幼児から発達段階に応じた取組を示して、子どもの読書活動を推進することとしています。子どもの読書活動は、子どもの読書活動の推進に関する法律より、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」であるという考えに基づいて行っております。石神井図書館ではこの理念を踏まえ、0才から18才までの子どもの読書活動推進を図るよう、よみきかせ、展示、イベント、学校関連事業などを行っています。

では、児童向けイベントからご報告いたします。

昨年度後半に開催しました児童向けの事業をご報告します。

1月には「ふゆはえいがをたのしもう！」と題して、2014年にスタジオジブリを退社したプロデューサーの西村義明氏が立ち上げたアニメーションスタジオ「ポノック」に依頼し、短編映画3作品の上映会を行いました。三篇それぞれ違う持ち味で、子供も飽きることなく鑑賞でき、アンケートには親子共に楽しめたとの声も寄せられました。

3月は練馬区在住の絵本作家、黒川みつひろ氏を講師としてお迎えし、講師の著書の読み聞かせと恐竜や化石のお話をしていただいた、親子で楽しむおはなし会「恐竜博士になろう！」を実施しました。黒川氏の本をいつも読んでいるという親子や、恐竜が大好きで参加している子どもの参加もあり、実物の化石に触る機会なども設けられたイベントは大変盛り上がりました。このイベントの後に児童室に恐竜の本の展示コーナーも作り、そちらも来館する恐竜好きの子ども達には好評を得ています。

続いて令和3年度の児童の事業報告です。

4月・5月のイベントは新型コロナウイルス感染拡大のため中止になりましたので、令和3年度の最初の児童イベントは6月の「みんな集まれ！にんぎょうげき」となりました。ねりま人形劇サークル「モモ」「おむすび座」に依頼し、会議室にて人形劇の上演を行いました。手遊びや歌など、ダイナミックな上演に笑い声が絶えない楽しいイベントとなりました。

夏休みに合わせて、図書館では児童向けイベントを多数行いました。

7月の初めには石神井中学校家庭部の生徒を招き、図書館スタッフと合同で、よみきかせやパネルシアター等を行いました。石神井中学校家庭部の生徒は、紙芝居2点、大型絵本1点のよみきかせを行い、動きもまじえた演出で、観客を魅了しました。昨年度はコロナで中止となったイベントだったので、今年は卒業する3年生を中心に素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。同じく7月に行われた「夏休みの宿題おうえん！国立天文

台の人に聞く「星のふしぎ」では、講師に国立天文台の普及室長で天文学者の縣秀彦氏をお迎えし、宇宙のことやこの時期に見られる星などについて、わかりやすく講義していただきました。前半は星座早見盤の作成やその使い方を教えていただき、後半は国立天文台で開発したMI TAKAというソフトウェアを用いた3D画像で地球から宇宙へ飛び出し、天体観測や天体望遠鏡の見方なども教えていただきました。星について詳しい子どもの参加が多く、縣先生の質問に対して、講師も舌を巻く回答が返ってくる場面もありました。

8月には、昨年人気があり要望があったため「なつのおたのしみ会 こわいおはなし会」を行いました。当初は外のテラスで行う予定でしたが、雨天だったため急遽会議室での開催となりました。絵本、紙芝居、ブラックパネルシアターなどを行い、「こわかったけど面白かった」「妖怪の対策が学べた」など、さまざまなご意見をいただきました。7月22日から8月31日まで「夏休み調べもの応援 しらべマスター」と題して、児童室のカウンタースタッフが「しらべマスター」というバッジをつけ、子どもの調べものの相談に対応しました。夏休みに合わせて、調べものの助けになるよう、子どもが声をかけやすい状況を作るよう配慮しました。

9月のはじめには、日本奇術協会会長を務められている渚晴彦氏を招き、「ドキドキマジックショー」を開催いたしました。渚氏のほかに2人のお弟子さんもリングマジック、カードの数字を当てるマジックなどを行いました。中でも渚氏の布を振って鳩を出すマジックでは、子どもたちから驚きや大きな歓声が上がっていました。

9月の終わりに秋の交通安全週間の期間に合わせて、石神井警察署員の方による交通安全指導と交通安全に関するよみきかせをしていただき、外で白バイ、ピーポくんとの記念撮影を行いました。子供たちは、真剣にお話やよみきかせを聞き、クイズに回答していました。

10月はパワカレ「つむぐ会」の方々を講師に迎え、2日で作るコースター「糸をつむぐ」のワークショップを行いました。このワークショップは、2日連続の講座で、1日目に綿を種付きの状態から、綿くり機と糸車を用いて糸を紡ぎ、2日目は自分で紡いだ糸を使って織機でコースターを織るというものでした。織機でコースターを織るなど少し難しい工程もありましたが、参加してくれた子どもたちは真剣に取り組んでいました。また、色や綿糸を入れるタイミングなど、こだわりのポイントがあり出来上がりも個性が出ていました。

続いて令和3年度の青少年の事業報告です。

今年度は、青少年に向けたイベントを2つ開催しています。将来を考える10代にむけて、「仕事」をイベントコンセプトとして企画し、8月に「未来予想図High&Lowマネープランゲーム」9月に「ちひろ美術館のお仕事講座」を行いました。どちらの参加者も真剣に話を聞いており、マネープランゲームでは「自分の今後の人生の参考になった」「お金についてよくわかった」ちひろ美術館では「実際に働いている人のお話が聞けて嬉しかった。勉強になるお話がたくさん聞けて、とても面白かった」などの感想があり、自分の将来について真剣に考えている様子が伺えました。お仕事講座は今後定例イベントにしようと考えています。

次に、今年度実施しました学校支援事業についてご報告させていただきます。

石神井図書館では毎年読書週間の期間（10月27日～11月9日）によみきかせ、探検ラリー、ブックトークを行っています。今年度は、石神井小学校で3・6年生がブックトーク、4・5年生が本の探検ラリーを行いました。

ブックトークは、3年生は「名前」、6年生は「旅」をテーマに図書館員が5冊程度選んだ本を子供たちに紹介していきました。

探検ラリーは難易度が3段階に分かれた問題をお子たちが選び、その問題に関する本を読み、その本の中から答えを導き出すというものです。どちらも様々な本との出会いと読書への興味をもってもらうための活動です。その下の写真は先月行いました上石神井北小学校の生徒約130名の図書館見学の様子です。上石神井北小学校は見学人数が多かった為、クラスを分散して来館していただき、基本的な感染予防対策を行い1クラス1時間ほどかけて館内を案内しました。

また、図書館の仕事を体験する職場体験は、石神井中学校の特別支援学級の生徒3名を受け入れました。

次に小中学校、学童クラブへの団体貸出の利用について、ご報告いたします。

昨年に引き続き支援校や近隣の学童クラブの方から、その時々のご要望にあった本をお送りさせていただいております。今年度の新たな取り組みとして、支援校に定期的に図書館を活用していただくために、図書館定期便と題して毎週月曜日に支援校行きの配送便の運行をはじめました。定期便を活用し、学校からの要望をお伺いし、図書館からのお知らせを送らせていただくなど、学校との連携を密にとれるようにいたしました。

こちらの表は上の緑色のグラフが今年度、下のオレンジ色のグラフが昨年度になっております。昨年度分は年間の貸出数、今年度分は10月末現在までの貸出数になっております。今年度につきましては、貸出数は昨年はまだ及んでおりませんが、定期便をご活用いただくことで、昨年同様またはそれ以上の利用が見込まれるものと考えております。

最後に、当館が昨年参加しております「図書館を使った調べる学習コンクール」についてです。こちらは、石神井・平和台・大泉・貫井・南田中の5館合同の事業になります。練馬区に在住または通学している小中学生、高校生を対象に図書館を使って調べた学習作品を応募いただき、優秀な作品は全国コンクールに出品されます。昨年度、石神井図書館から全国に進んだ作品が奨励賞を受賞しました。今年度は、石神井図書館に14点の応募があり、3点の優秀作品が決定いたしました。そのうち1点が全国コンクールに進むことが決定しています。今月6日に入賞者の表彰式を行う予定です。

事業報告は以上になります。何かご質問はございますか。

利用者 コロナ禍の中でいろんな事業をされて大変だったと思いますが、イベントの参加人数がどれくらいあったのかなども報告頂きたいと思います。次回から載せて頂きたいです。

また、貸出数、来館者数なども出していただけないでしょうか。

学校訪問や職場体験などの件数が以前より少ないのは、学校側が控えているのでしょうか。

図書館 イベントの参加人数につきましては、次回から掲載致します。

学校訪問や職場体験は、図書館としては感染対策を行いながら実施したいという話はしていますが、学校の方からこういう状況なので控えたいという意向があったため、件数は以前に比べると減っております。

また、貸出数、来館者数はこの後の「コロナ禍における図書館サービスについて」でご説明させていただきます。

利用者 ありがとうございました。

図書館 【コロナ禍における図書館サービスについて】

ではつづきまして第2部「コロナ禍における図書館サービスについて」報告致します。

まず、練馬区立図書館が感染防止に関して来館されている方々をお願いしている内容です。図書館ホームページのトップ画面「重要なお知らせ」として、最新情報に掲載しています。現在は10月22日付が最新情報となっています。内容としては「閲覧席は間隔をあけています」「滞在時間は2時間を目安にお願いします」「行事は内容により参加人数を制限するなど、必要な感染防止対策を講じて実施」等図書館の対策をお伝えしています。

また、お願いとして、マスクの着用や発熱や咳の症状がある場合来館を控えてください。会話を控えてください。身体的距離の確保等、基本的な対策のご協力をお願いしています。緊急事態宣言が解除されましたので、今後感染状況により変更になる可能性がありますので、適宜ご確認をお願い致します。

次にコロナ前である2019年度からコロナ禍の2020年度、2021年度における来館者数と貸出数、予約数をグラフにしました。赤枠のところは、緊急事態宣言が出ていた月です。今年度は、9月末までまん延防止措置に移行している期間もありましたが、ほぼ緊急事態宣言下での運営となっています。来館者数はコロナ前の2019年よりは減っていますが、今年は7月以降、緊急事態宣言下でありながら、昨年と比較すると来館者数は増えています。

また、貸出数・予約数は、昨年の休館期間である4月から5月末までは比較できませんが、それ以降、特に7月から9月を比較すると今年はコロナ前と比較しても増加傾向にあります。以前の滞在型の利用より、本の貸出につながる来館が増えていると言えると思います。制限された状況下では読書の想像力や広がり等「読書の楽しみ」の部分や新しい生活のための「知識」「情報」を得るためなど、様々な面で、より読書の必要性が高まっているのではないかと感じています。

石神井図書館で行っている取組について報告致します。

まず第一に、安心して図書館を利用いただくため、感染防止対策を徹底した館内づくりを行っています。

入口に手指消毒用のアルコール噴霧器・体表面温度測定器を設置、館内数か所に手指消毒用のアルコールを設置、定期的に館内を巡回し、OPAC（検索機）・自動貸出機など、手が触れる機会が多いところをアルコール消毒液で拭いています。利用者用インターネットやキャレル席など、利用ごとにアルコール消毒液で拭いています。設備としては、カウンターについたてを設置、閲覧席にアクリル板を設置しています。また閲覧席を間引き、身体的距離をとることができるよう配慮しています。開館中は窓開放による換気を行っています

が、地下の倉庫で石神井ふるさと文化館の収蔵品管理をしているため、館内は空調により 24 時間換気をしています。館内放送により滞在時間を短くしていただくことや、発熱時の来館を避けるよう注意喚起しています。

本の除菌につきましては、図書除菌機は昨年 4 月から設置しており、今年 8 月以降は 1 か月 3000 件を超える利用となっています。ウイルス全般に対する紫外線による殺菌効果と空気内部循環方式でほこりを除去する仕組みになっています。返却された本もアルコール消毒液を使用し、拭いています。また一度利用される方が手に取った本の回収場所も館内数か所に設置しており、巡回時等に適宜回収し、拭いてから棚に戻しています。

先ほど報告しましたイベント時にも、感染防止対策を講じております。こちらは一般、児童、青少年イベント共通の基本的対策になります。身体的距離がとれるように、定員を通常の半数に制限、入場時の検温や手指消毒。また講師の前にアクリル板を立てるもしくは、フェイスシールドの着用をお願いしています。休憩時間は 30 分から 1 時間ごとに入れ、換気を行い、講師への質問は休憩時間に紙に記入してもらい、スタッフが回収して、講師に回答頂く等、マイクを回す必要がないように工夫しています。

児童サービスにおけるよみきかせ等、定例イベントにおいても、基本的な感染防止対策に加え、様々な工夫をしております。児童担当の責任者より報告致します。

子どもにとって読書は人生をゆたかにしてくれる貴重な財産となるものです。子ども時代の貴重な体験を新型コロナウイルスによって奪うことの無いように、図書館は感染防止対策を図りつつ、図書館の利用を高め、読書の推進を進めるという一見矛盾した課題に取り組まなければいけなくなりました。コロナ禍においての図書館活動は、いまだ模索している最中であり、利用者懇談会という機会に今後の図書館について考えたいと思います。

基本的なコロナ禍での取り組みとしては、先ほど申し上げた内容と同じになります。

まずよみきかせ・おはなし会については、緊急事態宣言下において、石神井図書館では感染防止の観点から事業を見合わせておりましたが、10 月からは人数制限をしつつ行っております。コロナ以前は声を出して歌を歌うこともありましたが、コロナ禍においては、静聴してもらうようにしています。また、距離を取って席についてもらうなどの対応をとっています。ブックスタートにつきましては、緊急事態宣言下でも行えるよう練馬区内の図書館で検討し、事前予約制での開催を行っております。10 月からは人数制限を行いつつ実施しております。その他の児童イベントについては、コロナ禍においてイベントの需要が高まっているのではないかと感じます。行うイベントの予約はすぐに埋まり、当日のキャンセルも以前よりも減っていることから、新型コロナウイルス感染症対策によって自宅で過ごす時間が長くなり、旅行や外出の機会が減った子どもが、身近な図書館のイベントに興味を持っているのではないのでしょうか。

青少年イベントとして開催しました「未来予想図 High & Low マネープランゲーム」では、緊急事態宣言下だったことから、講師が Zoom で講義を行いました。一般事業でも先ほど報告致しましたちひろ美術館との連携事業である「赤羽末吉の旅と絵本」の講演会の際には、当館で講演会を行い、貫井図書館と南田中図書館に同時にオンラインで中継するという試みも行いました。ひとつの会場は今半数の参加者で行っていますので、なるべく多く

の方に参加頂く試みとして行いましたが、今後新しいやり方のひとつとして取り入れていければと思っています。

続いて学校支援事業の感染防止対策についてです。昨年はコロナの感染状況が悪化するなか、緊急事態宣言の発出などもあり、学校支援事業も縮小傾向にありました。

今年度に関しましては、昨年同様、図書館見学・職場体験・ブックトーク等学校からの依頼を受け入れております。小学校でのよみきかせ・ブックトークでは、子供たちとの対面を避けるため、書画カメラを使用しました。どの事業もマスク・手指消毒・検温の実施を基本とし、図書館見学など、参加人数の多い事業については、クラスを分散して行うなど密にならないよう、感染予防対策を講じながら行っております。職場体験では体験する生徒さんにゴム手袋の着用をお願いし、図書館の仕事を体験してもらいました。今年度実施した本の探検ラリーでは、大勢の子供たちがたくさんの本と触れ合う場面がある為、触れた本全てを除菌シートで拭くなどの感染防止対策をしております。

次に、先ほど活動が制限される中で読書の重要性をより強く感じるようになったお話をさせていただきましたが、図書館では滞在時間が制限されている中で、なるべく魅力的な本に出会って頂く試みもいくつか行いました。昨年度縮小開館をしていた期間には、館内利用は貸出のみで館内滞在ができず、絵本のカーペットコーナーでも絵本をゆっくり読んでいただくことができない期間がありました。その際に短時間で魅力的な本と出合えるよう、カーペットコーナーの手前にスタッフのおすすめ本を展示し、手に取りやすいよう工夫しました。今年の緊急事態宣言中の5月には、滞在時間を1時間をお願いしていましたので、やはり短時間で魅力的な本との出会いを提供するため、一般、児童、青少年対象にそれぞれの担当が3冊ずつおすすめ本を袋に入れて、中身がわからないようにして貸出し、思いがけない本との出会いを楽しんでいただける「お楽しみ袋」を実施しました。

そして最後になりますが、これは通常時から心がけていることではあるのですが、コロナ禍をきっかけにより読書の楽しみと出会える館内づくりや書架づくりをする意義を実感しています。また、情報や知識を得るという「知る」という部分に応えるため、情報発信を強化した書架づくりを目指しております。展示コーナーの展示はもちろんのこと、館内各所の書架内や周辺で分野に合わせ、区の取組や様々な時事的な問題の関連展示を行い、情報と本を合わせて紹介しています。コロナに関する区の取組みもいくつか紹介しています。

最後にご紹介したいのは、現在読書週間の期間なのですが、今月21日まで館内全体展示として、「本で空想旅行」と題して、展示コーナーと各分野の棚のところで、館内全体展示を行っています。「本を開いて果てない旅へ出よう」という主旨で、旅をしている気分や本ならではの時空を超えた旅など、様々な旅を想像力の中で体験できる本を展示しています。こちらは各分野の担当スタッフがおすすめしている本のブックリストと展示場所を示した館内マップになっていますので、ぜひ一度こちらの冊子を片手に館内を巡っていただければと思います。報告は以上となります。

それではここからは、みなさまとの意見交換の時間とさせていただきます。ご発言に際しましてですが、発言なさる方はお話いただく前に団体名をおっしゃってから、ご発言いただきますよう、お願いいたします。また、一人でも多くの方にご発言いただきたいため、大変

恐れいりますが、ご発言はおひとり様3分程度とさせていただきます。皆様との懇談会が有意義なものとなりますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、さきほど冒頭でも申し上げましたが、本日のテーマは「コロナ禍における図書館サービスについて」でございます。そのため、館独自で答えられないような、例えば図書館システムに関わる内容など、区立図書館全体に関することはお答えできない場合があります。その際は、練馬区立図書館を総括しています光が丘図書館に、その内容を伝えます。後日、光が丘図書館と調整して、ホームページで回答させていただく予定です。また、よろしければ、11月20日（土）午後2時から4時に行われます、光が丘図書館での懇談会にご参加いただいて、そちらで質問していただければ、より詳しい回答があると思います。

何かご質問がございましたら挙手をお願いいたします。

特にご質問等がなければ、初めてご参加いただく方もいらっしゃると思いますので、お一人ずつ何かお言葉をいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

利用者 ふるさと文化館ですが、2階の地域資料コーナーで展示を行っていただくなどありがとうございます。当館としても、図書館との連携は大変大切に思っております。いろいろ情報交換できればと思います。

利用者 先ほど（コロナ禍において）利用者は減ったけれども戻ってきた、新しい活動形態を模索して成功しているという話がありましたが、布の絵本でも同じように感じています。不謹慎な言い方ではありますが、コロナ禍の中でもやり方によってはプラスに持っていけるのではないかと感じています。

利用者 児童館にも図書室がありますが、最近コミックの蔵書が増えております。これは小学生の低学年までのお子さんは読書も熱心に行うのですが、それ以上の子供についてはじっくり本を読む機会が生活の中で失われ、コミックなど手軽に読めるものに偏るのではないかと。また、事業については児童館でも好評なのですが、受動的に受けるものについては興味を持ってくれるけれども、自分の方から知識を得ていこうというお子さんは少なくなっているのではないかとというのが私の感想です。コロナに関しては、同じように大変な状況であります。

利用者 庁舎まで来られない石神井近隣の高齢者が元気になれるようなイベントを今後、コロナが明けたら一緒に行っていけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

利用者 ブックスタートでは、当初の目的である参加してくれたお母さん同士が交流を持ったりするということがコロナ禍では難しくなっています。この状況下でも本を渡すことができる喜びを感じています。個人的には予約システムをよく利用させていただいております。

利用者 石神井公園など外で紙芝居をするなど、公園の隣の立地などを生かしたイベントも良いのではないのでしょうか。

利用者 神社では「井のいち」や「こもれび図書館」など、石神井、南田中図書館との連携事業も多く行っておりますが、石神井図書館ではたくさんの企画を出されて、そのたびに違うポスターなどを作られていて、本当に頭が下がる思いです。

図書館は私の子供がよく利用させていただいており、調べものをするときにはインタ

ーネットではなく、図書館を利用するように話しています。

利用者 ブックスタートでは、入場制限などで行う前にしばらく行えない時期があり、本を手渡せないことを残念に思っておりました。

私は他の自治体の図書館にも関わらせていただいているのですが、石神井図書館はコロナ禍にあっても、いろんな方を呼んで様々な事業をやっていただいているので、学校支援にしてもいろんな工夫をされているので、すごいなと思っておりました。

利用者 昨年度、今年といろいろな事業を行っていらっしゃいますが、コロナの状況が落ち着いたらこれまで出来ていなかった、コロナ以前に行っていた事業を引き継いでいただければよいと思います。図書館というのは情報発信だけじゃなく、地域に溶け込んで活動していく場だと思っております。

また、先ほど気になったのですが、本の探検ラリーはNCBNが光が丘図書館に委託されて行っている活動ですので、そちらのご紹介もよろしくお願いいたします。

図書館 NCBNさんのご紹介が抜けており、申し訳ございません。

利用者 高齢者施設のよみきかせなどを行っているのですが、コロナ禍で現在行えなくなっております。そろそろ再開できるのではないかと期待しております。コロナ禍において、自宅で過ごす機会が多くなり、図書館の本を借りることが多くなっています。ネットで予約できるというのも大きいので、図書館の需要というのは高まっているのではないかと思います。指定管理館になる前の事業なども引き継いでいただいているので、嬉しく思っております。

石神井図書館のイベントは、図書に関するものが多いので、社会の問題や地域の課題に切り込むようなものを考えて頂けたらと思います。

図書館 高齢者施設の状況を確認しながら、検討していきます。また社会の問題や地域の課題に切り込むようなイベントも考えていきたいと思っております。

利用者 高齢者施設も障害者の施設なども、現在もまだ外部の人を入れるというのは難しい状況です。そんな中、不特定多数の利用者が来る図書館という場所で、知ってもらいたい、利用してもらいたいという思いと相反する状況の中で、先ほど紹介されたいろんな企画で人を呼び込んで興味を持ってもらうということはすごいことだなと改めて感心いたしました。お疲れ様です。

コロナ禍での事業展開は、なかなか思い浮かばないと思うのですが、どんな状況であっても図書館は地域の拠点であり、いろいろなことをやっていただきたいと思っております。そしてコロナが落ち着いてきたら、図書館に興味のない方も呼び込めるような活動を行っていただけたら嬉しいと思っております。個人的には以前もお話ししましたが、キッチンカーなどを呼んで地域の人を呼び込み、PRをして、そのついでに事業を行うなどしていただけないでしょうか。

図書館 様々な励みになるお話ありがとうございます。やはりコロナ禍においては日々悩みながら行っている状況ですので、これで大丈夫なのか、感染防止対策においてもどこまでやるのが正解なのか難しいと思っております。先ほどご説明しましたように、コロナ禍において新しい発想の転換というのは実際のところ難しい面もあり、前向きに捉えてで

きているかは正直なところ自信はあまりないのですが、本来の図書館の役割である、読書の楽しみや読書の持つ力などを最大限活用していただける館内作りや展示を行うように日々取り組んでいるところです。

皆様からもいろいろなご意見をいただきまして、地域包括センター、高齢者の施設や障害者施設、高齢者のよみきかせ等、コロナ禍で事業がストップしてしまっているものもありますので、もう少し落ち着きましたらぜひ連携させていただきたいと思っております。また図書館未利用者呼び込む活動等も課題としていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

時間となりましたので、これで閉会とさせていただきます。ありがとうございます。

引き続き、図書館の運営にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

本日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。